

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年1月号)

2023/12/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは12月27日（水）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		12月26日現在 (矢印は11月末比)	1月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 142.40	↘ 135.00 ~ 150.00
	日銀のマイナス金利解除を見据えて円高基調		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.104	⇒ 1.00 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	↘ 157.24	↘ 145.00 ~ 165.00
	FRBとのスタンスの違いからユーロは底堅いが、上値も重い		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.273	⇒ 1.20 ~ 1.32
	ポンド・円 (円)	↘ 181.20	↘ 170.00 ~ 190.00
	景気減速懸念から上値は重い		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 97.18	⇒ 94.00 ~ 99.00
	NZドル・円 (円)	↘ 90.09	⇒ 88.00 ~ 92.00
	選考されやすいオセアニア通貨も円買いの圧力に晒される		
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 33,306	↘ 32,000 ~ 34,000
	日銀金融政策決定会合に向けて上値の重い展開		
	NYダウ (ドル)	↗ 37,545	↘ 35,000 ~ 39,000
長期 金利	FRBによる早期利下げ期待の高まりに修正の余地あり		
	日本 (%)	↘ 0.629	↗ 0.50 ~ 0.90
	日銀の利上げ（マイナス金利解除）により長期金利も上昇		
	米国 (%)	↘ 3.897	↗ 3.50 ~ 4.50
	行き過ぎた利下げ織り込みが剥落し、いったん金利上昇へ		

◆ 今月の注目ポイント

日銀の展望レポートに注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【日銀】去年12月の日銀金融政策決定会合では植田総裁のメッセージを期待した向きがあったが、結局踏み込んだ発言はなかった。政策修正への思惑が後退したものの、消えてはいない。今回の会合では展望レポートが発表される。去年10月の物価見通しでは24年度と25年度のコアコア指数は共に前年比+1.9%と2%物価目標に近づく。植田総裁も物価目標の達成の確度が少しずつ高まってきているとの認識を示した。1月下旬の会合まで賃上げに関する情報も入るので、日銀は政策修正に向けてどのような布石を打つかが注目される。日銀の自信が深まれば、1月の政策修正の可能性も留意したい。
景気	○	【米欧景気動向】欧米中銀の利下げ織り込みが急速に進んでいる中、景気状況がそれを正当化するかどうかは足元の適温相場に影響を与える。今年は暖冬傾向のため、経済指標の上振れリスクに注意。
地政学	○	【台湾選挙】選挙の結果次第で台湾海峡をめぐる地政学緊張感が変わる可能性があるため、注目される。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↘ 19.65 ~ 20.15	ルピー・円	↘ 1.68 ~ 1.73
バーツ・円	⇒ 4.00 ~ 4.30	ウォン・円	⇒ 10.75 ~ 11.25
ルピア・円	⇒ 0.90 ~ 0.95		

◆ 今月の重要日程

1日 (月) 他	New Year's Day	16日 (火) 中	23/4Q GDP
3日 (水) 米	12月ISM製造業	19日 (金) 日	12月CPI
3日 (水) 米	FOMC議事要旨 (12/12,13)	23日 (火) 日	日銀金融政策決定会合
5日 (金) 米	12月雇用統計	25日 (木) 欧	ECB理事会
5日 (金) 米	12月ISM非製造業	31日 (水) 中	1月PMI
11日 (木) 米	12月CPI	31日 (水) 米	FOMC (結果発表)

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

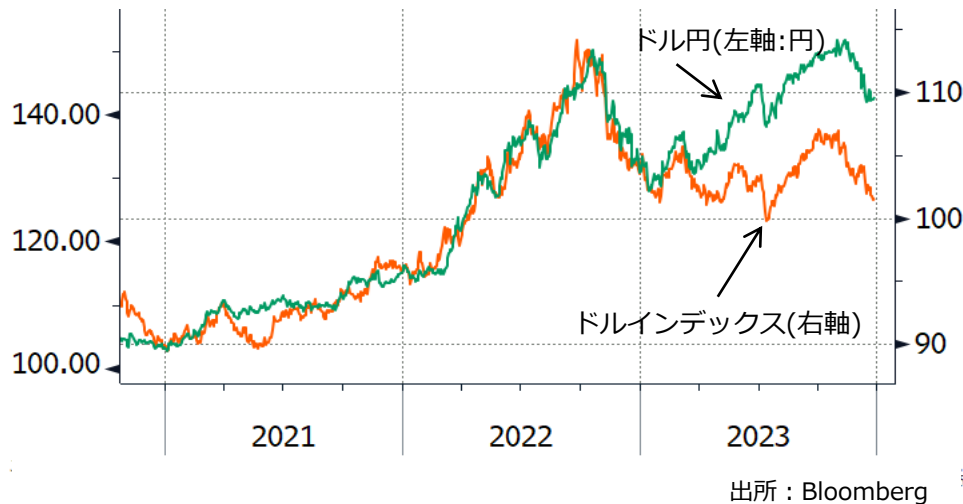
(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

135.00 – 150.00円

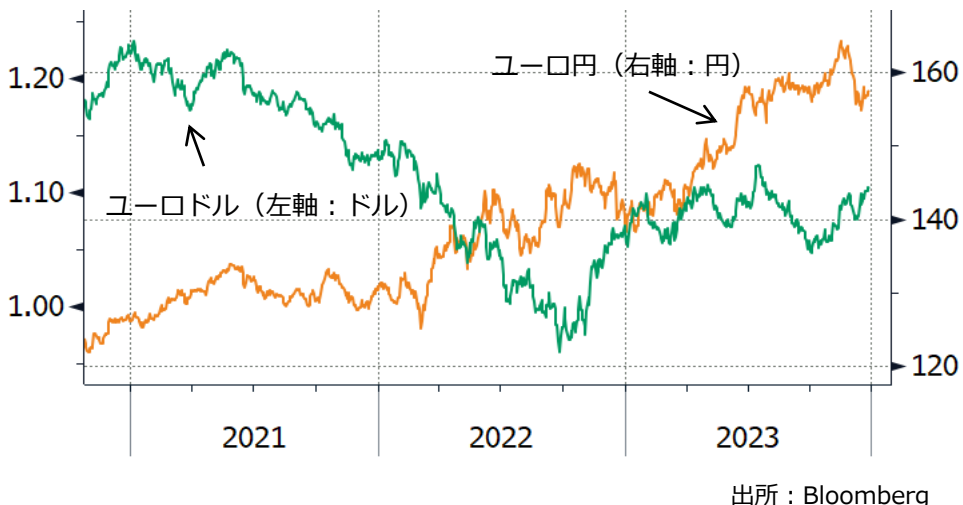
日銀のマイナス金利解除を見据えて円高基調

12月のドル円相場は右肩下がりに下落した。中旬に行われたFOMCがハト派的な内容であったことから2024年におけるFRBの利下げ観測が加速し、米長期金利が大きく低下したことが主因。日銀会合で緩和が維持されたことで反発する場面も見られたが、USD安の勢いが継続し、ドル円は軟調に推移した。

1月のドル円は引き続き下落を予想する。市場の米利下げ織り込みにはやや行き過ぎ感があり、年明け以降は米長期金利とともに、いったん上昇する場面もあるが、FRBの次の行動が利下げであることは揺るぎそうにない。基調としてはUSD安傾向が継続するだろう。

また、日銀は1月の会合にて利上げ（マイナス金利解除）に動く可能性がある。12月の会合では一部の利上げ期待に反して現状維持となったが、記者会見では物価目標達成の確度が高まっているとの発言もあり、1月の展望レポートでは物価見通しが上方修正される可能性がある。国内の人手不足は如実に高まっており、春闘では一定の賃上げが継続する可能性が高い。賃金と物価の好循環が実現し、デフレを脱却したとの判断に至れば、デフレ対策としてのマイナス金利政策は役目を終えたものとなるだろう。日米金利差の縮小により、ドル円には下落圧力となる。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.00 – 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

145.00 – 165.00円

FRBとのスタンスの違いからユーロは底堅いが、上値も重い

12月のEURはタカ派的なECBを受け対USDで上昇、対JPYでは月初に植田総裁の「チャレンジ」発言を受け下落したが、ECBを受け下げ幅を縮小した。

1月のEURは底堅いが上値も重い展開を見込む。12月のFOMCで突如「利下げについて議論を開始した」とハト派に転じたFRBパウエル議長に対し、ECBのラガルド総裁は「インフレへのガードをまだ緩めるべきではない」とタカ派的なスタンスを維持した。また、パンデミック下で購入した資産の再投資について、従来は2024年末まで全額を再投資するとしていた方針を7月以降縮小し、24年末には全ての再投資を停止するとの方針も示された。米欧の金融政策へのスタンスの違いがユーロを下支えすると見込まれるが、引き続きユーロ圏経済は米国対比弱く、景況感の格差がEURの上値を抑えよう。対JPYでは下落を予想。日銀が1月の金融政策決定会合でマイナス金利の解除を行うとの警戒は引き続き高く、政策変更への思惑が燃えることからEUR安JPY高を見込む。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

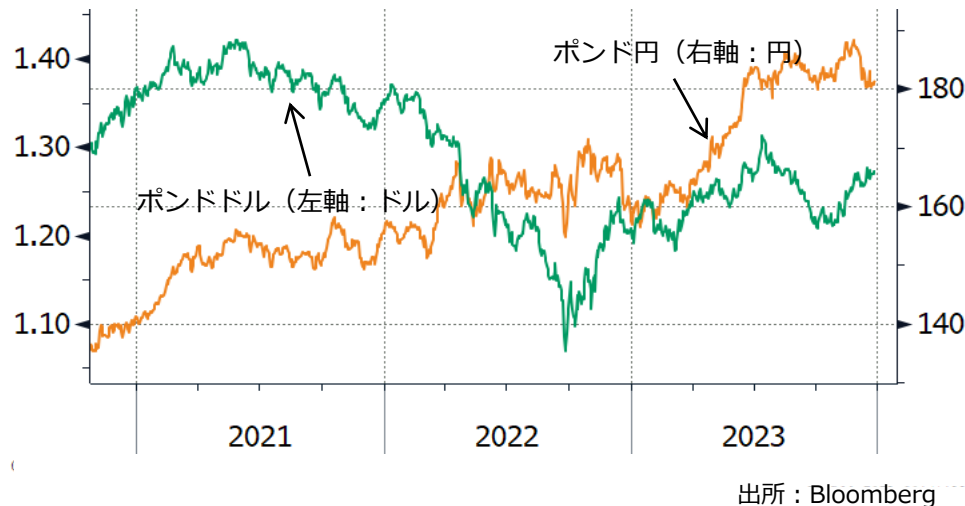
(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

⇒ ポンドドルは横ばい

1.20- 1.32ドル

ポンド円

⇒ ポンド円は下落

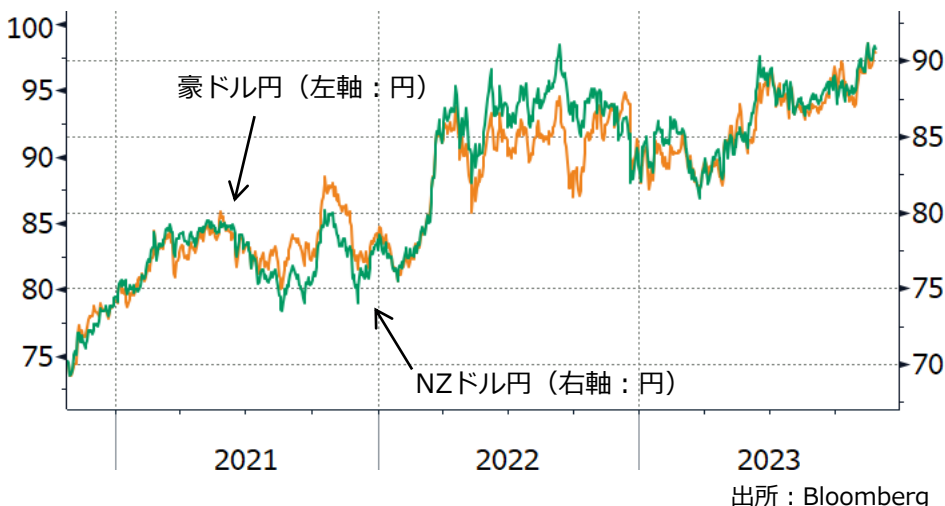
170.00 - 190.00円

景気減速懸念から上値は重い

12月のGBP相場は対USDで横ばい、対JPYで下落。対JPYでは月初の植田総裁の「チャレンジ」発言を受け円高が進行した。

1月のGBPはもみあいを予想する。米英ともに利下げのサイクルが終了したと見られるが、米FRBのパウエル議長は12月のFOMCで「利下げ議論を開始した」と発言した一方、インフレが減速しているとはいえ高止まりする英国は早期の利下げ観測を否定している。両国金融政策の違いからGBPは底堅い推移が見込まれるが、英国経済は米国対比で弱く、上値は重くなりやすい。直近の金融政策決定会合では政策金利が3会合連続で据え置きが決定した。6対3での決定と前回と変わらなかった。対JPYでは英国政策金利が据え置かれる一方で、日銀は1月にもマイナス金利解除の思惑が高まっており、政策変更への思惑が燃えることから、上値の重い展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

⇒ 豪ドル円は横ばい

94.00 - 99.00円

NZドル円

⇒ NZドル円は横ばい

88.00 - 92.00円

選考されやすいオセアニア通貨も円買いの圧力に晒される

12月のオセアニア通貨は対円で下落となった。月初に豪中銀のハト派据え置きや日銀の早期政策修正期待から豪ドル円、NZドル円は急落した。FRB/パウエル議長がFOMCでハト派姿勢を示すと、リスクセンチメントの改善を受け、豪ドル円、NZドル円は下げ止まった。良好な豪州の雇用状況や日銀金融政策決定会合でのゼロ回答もあり、オセアニア通貨は対円で月末にかけて下げ幅を縮小した。

1月のオセアニア通貨は対円で上下しやすい。欧米中銀の利下げへの期待による世界的な株高が継続しやすい中、リスクセンチメントに敏感な豪ドル、NZドルは選好されやすいだろう。欧米中銀と比べて比較的タカ派の豪中銀、NZ中銀のスタンスもサポート材料となる。底堅い鉄鉱石の価格も好材料になりやすい。一方、下旬の日銀金融政策決定会合に向けて政策修正の思惑が強まる可能性があり、円買いにつながりやすい。特に比較的経済指標が軟調なNZドルは上値が重くなりやすいと見る。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

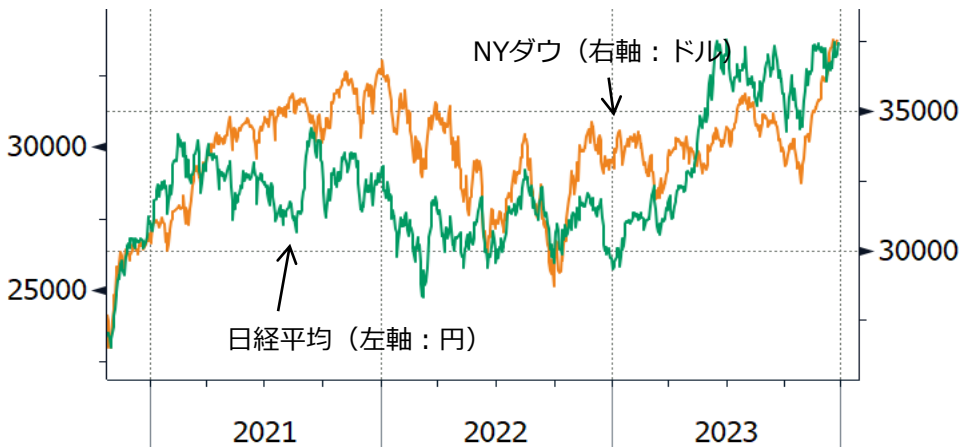
(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



出所：Bloomberg

日経平均



日経平均は下落

32,000 - 34,000円

日銀金融政策決定会合に向けて上値の重い展開

12月の日経平均は米FRBがハト派転換したことや、日銀の金融政策が現状維持となったことから月末にかけて上昇、年初来高値を付ける場面もあった。1月の日経平均は上値の重い展開を予想。米国株はFRBによる早期の利下げ期待を織り込んでいるが、やや行き過ぎ感もあり、修正の余地もある。また23日の日銀金融政策決定会合に向けて引き続きマイナス金利解除への警戒感も高まりやすい。一方新NISA開始や企業統治改革等への期待感から下値も限定的と見る。

NYダウ



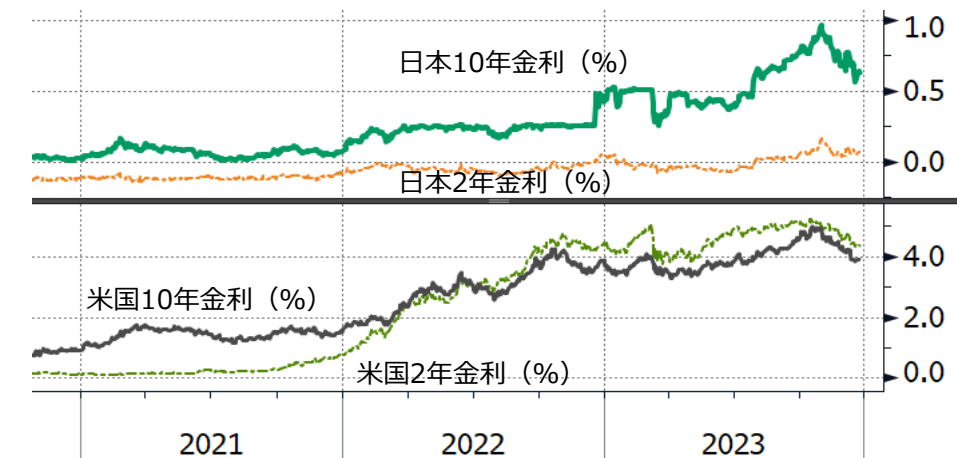
ダウは下落

35,000 - 39,000ドル

FRBによる早期利下げ期待の高まりに修正の余地あり

12月のダウ平均はFRBのハト派転換で大幅上昇。NYダウは史上最高値を更新する場面もあった。1月のダウ平均は上値の重い展開を見込む。引き続き米景気のソフトランディング期待やFRBの利下げ期待が株価をサポートしようが、市場では年6回の利下げを見込んでおり、やや行き過ぎ感もあることから修正の余地も大きい。また本当に年6回の利下げが必要となれば、景気の一段の悪化が懸念され、株価には重石となる。12月の急ピッチな上昇の修正も入りやすいだろう。

長 期 金 利 見 通 し



出所：Bloomberg

日本国債10年



金利は上昇

0.50 - 0.90%

日銀の利上げ（マイナス金利解除）により長期金利も上昇

12月の国内長期金利は日銀会合後に大きく低下した。海外金利低下の影響のほか、日銀正副総裁による利上げに前向きな発言が伝わったことから、12月の日銀会合での利上げの期待が高まっていたことから、政策現状維持が伝わると急速に買い戻された。ただし、記者会見では物価目標達成の確度が高まっているとの発言もあり、利上げに向けて進捗していることは確認された。次回1月の日銀会合では物価見通しの更新とともにマイナス金利解除が行われると見る。

米国債10年



金利は上昇

3.50 - 4.50%

行き過ぎた利下げ織り込みが剥落し、いったん金利上昇へ

12月の米金利は大きく低下し、一時4%を割り込んだ。FOMCにてドットチャート（政策金利見通し）が引き下がったことや、パウエル議長が利下げ議論の開始に言及したことで、2024年の利下げ期待が高まったことが背景。ただし、インフレの見通しが大きく変わったわけではなく、市場が現在織り込む利下げペースにはやや行き過ぎ感がある。FRBが想定する2024年の利下げ回数は3回であり、市場の織り込みが修正される過程で米長期金利は小幅に上昇を予想する。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

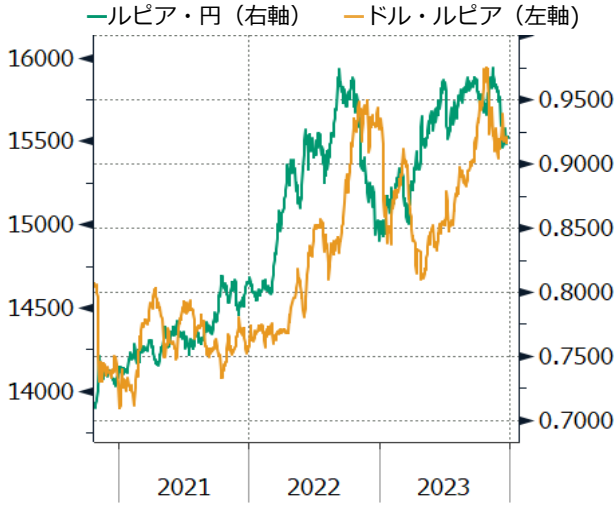
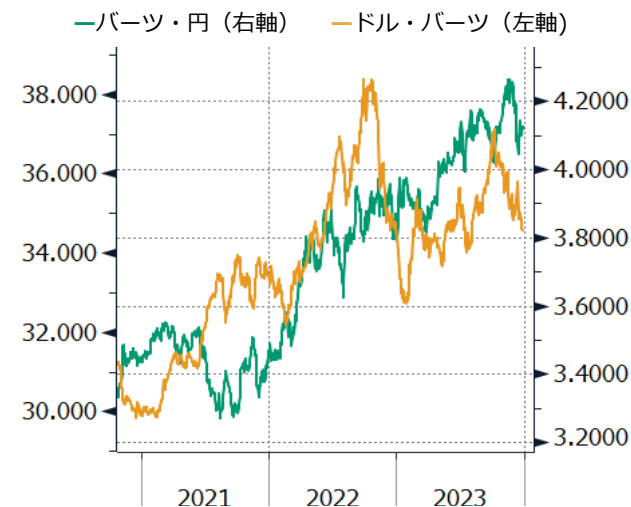
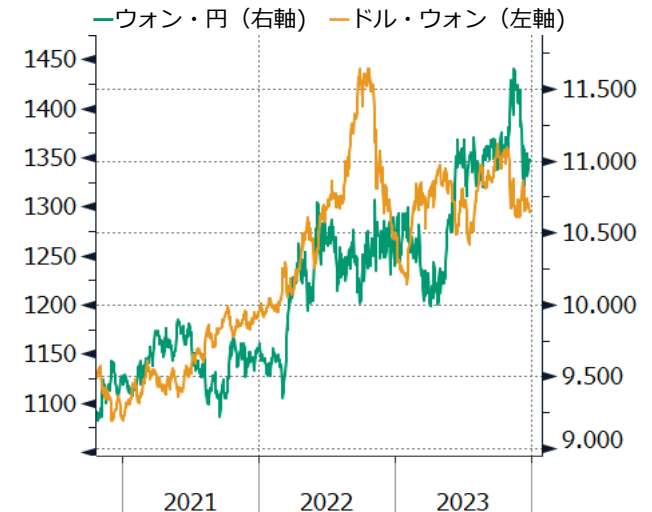
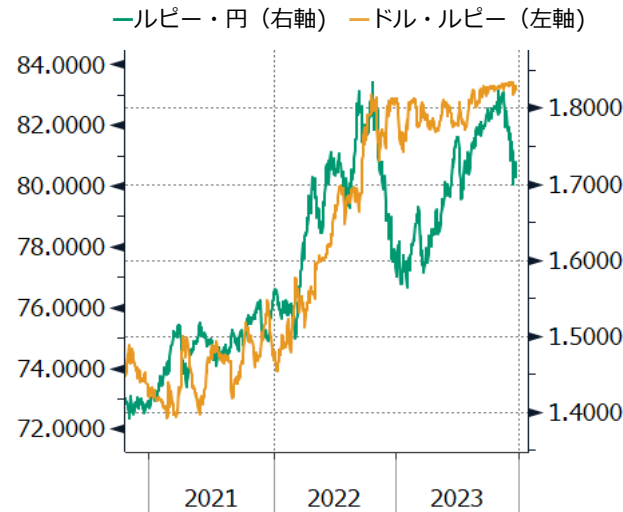
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		12/26	12月の相場推移		1月の予想		解説
中国	人民元/円	19.94	➡	19.76～20.74	➡	19.65～20.15	FRBのハト派転換によるドル売り主導で12月にドル人民元は下落したが、中国人民銀行の追加緩和期待から下落は小幅にとどまった。大手国有銀行をはじめ、預金金利を引き下げている銀行が散見される。銀行の利鞘を確保し、1月の利下げへの布石を打っているとの思惑が強まる。米中金利差が拡大し、人民元の重しとなりやすい。一方、春節に向けて輸出企業のドル売りがサポート材料。
	ドル/人民元	7.142	➡	7.10～7.20	➡	7.00～7.20	
タイ	バーツ/円	4.120	➡	4.01～4.22	➡	4.00～4.30	CPIや貿易収支が下振れしたものの、デジタルウォレット政策への期待やFRBのハト派転換を受け、12月のドルバーツは下落した。輸出より輸入の伸び率が早く改善している中、貿易収支の黒字化転換は時間がかかるが、観光業回復の継続は引き続き12月バーツの支えとなる。FRBのハト派転換を受け、タイを含めて新興国へ資金が流入しやすい。総じてバーツは対ドルで底堅く推移するだろう。
	ドル/バーツ	34.58	➡	34.56～35.84	➡	34.0～35.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.920	➡	0.91～0.96	➡	0.90～0.95	12月にインドネシアの貿易黒字はやや下振れしたが、ドル売り主導でドルルピアは下落した。12月のインドネシア中銀が政策金利を据え置いたが、来年後半の金融緩和余地に言及した。FRBより急がない姿勢がルピアの好材料。主要中銀の利下げ期待から財需要の回復が見込まれ、インドネシア輸出も回復していくだろう。紅海をめぐる緊張感により、原油価格の反発も好感される可能性がある。
	ドル/ルピア	15,483	➡	15,428～15,669	➡	15,200～15,500	
インド	ルピー/円	1.714	➡	1.69～1.78	➡	1.68～1.73	12月の金融政策決定会合ではインド中銀は想定ほどタカ派ではなかったが、ドル売りが進行している中、ルピーは対ドルで上昇した。経常収支は堅調なサービス収支黒字や労働者による送金を受け、改善する兆しが見られる。しかし、中東情勢により、原油価格の上昇が貿易赤字につながりやすく、ルピーの重しとなる。1月のドルルピーは方向感が出にくいとみる。
	ドル/ルピー	83.19	➡	82.90～83.40	➡	83.00～83.50	
韓国	100ウォン/円	11.003	➡	10.72～11.49	➡	10.75～11.25	半導体セクターの改善や貿易黒字拡大を好感し、12月のウォンは対ドルでの増価が継続した。インフレ鈍化の加速やFRBのハト派転換を受け、韓国中銀は1月の会合でタカ派トーンを緩める可能性がある。世界の半導体需要の回復を受け、半導体株の上昇や輸出の改善が見込まれ、ウォンは対ドルで引き続き堅調に推移するだろう。
	ドル/ウォン	1,294	➡	1290～1,327	➡	1,270～1,320	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年				ポイント
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	130～150	125～145	120～140	125～145	FRBの利下げと日銀の利上げにより、日米金利差が縮小し、徐々に上値が重くなる。
	期末値	140	135	130	135	
ユーロドル	レンジ	1.00～1.20	0.95～1.15	1.00～1.20	1.00～1.20	ECBの利上げサイクルは終了した可能性が高く、今後は現状の政策金利をどこまで維持するかが注目される。ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、EURの上値は重い。
	期末値	1.05	1.00	1.08	1.08	
ユーロ円	レンジ	135～165	130～155	125～155	125～155	ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、GBPの上値は重い。一方、労働需給のひっ迫や、賃上げ等からインフレは高止まりしやすく、高い政策金利をどこまで維持するかが注目される。
	期末値	147	135	141	146	
ポンドドル	レンジ	1.10～1.40	1.05～1.30	1.05～1.30	1.05～1.30	中国当局の景気支援方針で中国経済が徐々に回復していく。FRBによる利下げ期待から米中金利差は縮小し、ドル人民元を押し下げる。今年からグローバル製造業の本格回復で貿易黒字が拡大し、人民元買いにつながる。
	期末値	1.20	1.25	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	150～180	140～170	140～170	140～170	豪中銀の比較的にタカ派姿勢で足元底堅く推移するも日銀政策修正の思惑で上値が重くなる。
	期末値	168	169	163	169	
ドル人民元	レンジ	6.80～7.20	6.60～7.10	6.40～6.90	6.20～6.70	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	6.90	6.70	6.50	6.40	
人民元円	レンジ	18.06～22.06	17.61～21.97	17.39～21.88	18.66～23.39	
	期末値	20.29	20.15	20.00	21.09	
豪ドル円	レンジ	84.50～105.00	82.50～102.95	78.00～98.00	82.50～102.95	
	期末値	93.80	93.15	88.40	93.15	
タイバーツ円	レンジ	3.60～4.70	3.50～4.50	3.40～4.50	3.70～4.80	
	期末値	4.12	4.09	4.06	4.35	

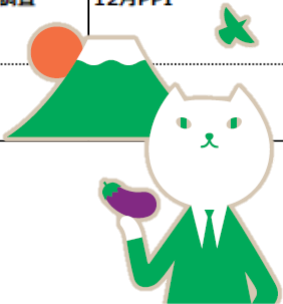
◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年1月号)

2023/12/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
1/1(月)	(元日)		
1/2(火)			
1/3(水)		12月ISM製造業景況指数 FOMC議事要旨	
1/4(木)			
1/5(金)		11月製造業受注 11月貿易収支 12月ISM非製造業景況指数 12月雇用統計	
1/8(月)	(成人の日)		
1/9(火)	11月家計調査	3年債入札	
1/10(水)	10年債入札 11月毎月勤労統計 (速報)	10年債入札	
1/11(木)		12月CPI 30年債入札	
1/12(金)	12月景気ウォッチャー調査 30年債入札	12月PPI	
1/13(土)			(台湾) 台湾總統・立法院議員選挙



	日本	米国	その他
1/15(月)		(キング牧師記念日)	(他) 世界経済フォーラム (ダボス会議) (~19日)
1/16(火)	5年債入札		(中) 10-12月期GDP (独) 1月ZEW景気指数
1/17(水)		12月小売売上高 20年債入札	
1/18(木)	11月機械受注 20年債入札	12月住宅着工・許可件数 12月新築住宅販売	
1/19(金)	12月消費者物価指数		
1/22(月)			
1/23(火)	植田日銀總裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	2年債入札	
1/24(水)	12月貿易統計	5年債入札	(欧) 1月PMI (速報値)
1/25(木)	40年債入札	10-12月期GDP (速報値) 7年債入札	(欧) ECB定例理事会 (独) 1月IFO企業景況感指数
1/26(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (12/18~19開催分)	12月個人所得・消費支出	
1/29(月)			
1/30(火)	12月労働力調査 2年債入札		
1/31(水)	12月鉱工業生産 12月住宅着工件数	FOMC (結果発表)	

りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【11/24～11/30】

◎ デジタルサービス貿易、過去最高の3,727億ドル

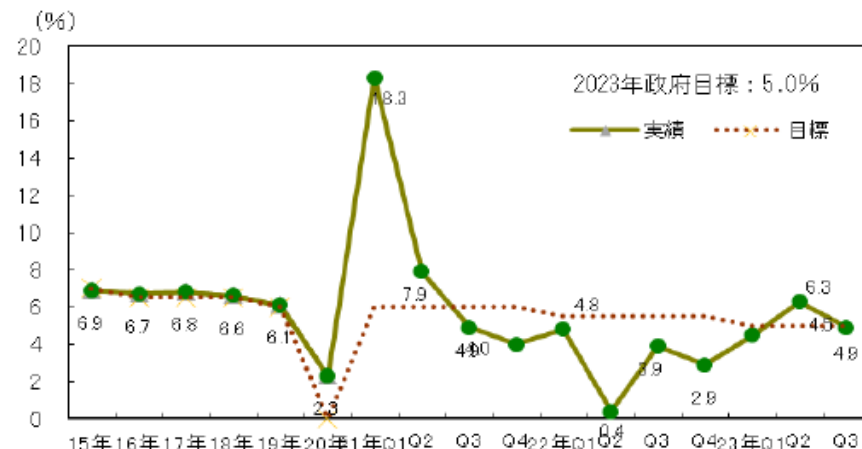
中国商務省によると、中国の2022年のデジタル関連サービス貿易額は前年比3.4%増の3,727億1,000万米ドル（約55兆7,000億円）となり、過去最高額を更新した。越境電子商取引（越境EC）の伸びが全体を後押しした。デジタル関連サービスの22年の輸出額は前年比7.6%増の2,105億4,000万米ドル、輸入額は1.6%減の1,621億7,000万米ドルだった。輸出から輸入を差し引いた貿易黒字は483億7,000万米ドルで、前年から175億4,000万米ドル拡大した。

【12/1～12/7】

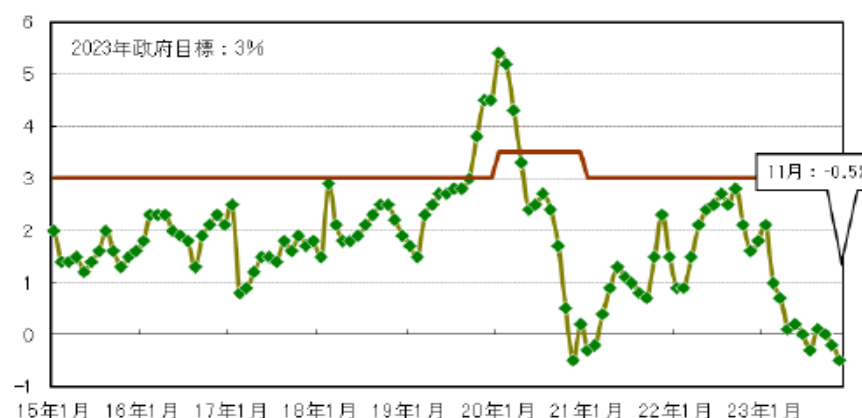
◎ 供給網博覧会が閉幕、契約額1,500億元超

今年初開催のサプライチェーン関連の国際見本市「中国国際供給網博覧会」が2日閉幕し、会期中の契約総額が1,500億元（約3兆1,000億円）を超えた。契約件数は200件以上。主催者の中国国際貿易促進委員会（CCPIT）が明らかにした。供給網博覧会は北京市で11月28日から12月2日まで開かれていた。国内外から515社・団体が出展。延べ13万人が来場した。期間中は交流イベント等を計360回開いた。CCPITは供給網博覧会の開催によって、川上から川下までの企業間、産学研用間の連携が促進されたと指摘している。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【12/8～12/14】

◎ 11月PPIは3.0%下落、マイナス続く

中国国家统计局が9日発表した2023年11月の工業品卸売物価指数（PPI）は前年同月比で3.0%下落した。マイナスは14カ月連続。下落幅は前月から0.4ポイント拡大した。生産財の価格は前年同月比で3.4%下落。下落幅は前月から0.4ポイント拡大した。工業品仕入れ物価指数は4.0%下落、10カ月連続で下がった。下落幅は前月から0.3ポイント拡大した。前月比のPPI、工業品仕入れ物価指数共に0.3%下がり、4カ月ぶりの下落となった。

【12/15～12/21】

◎ 小売売上高の伸びが10%超え、11月の経済が大幅増も楽観できず

中国国家统计局が15日発表した2023年11月の主要経済指標は、小売売上高が前年同期比10.1%増となり、6カ月ぶりに10%を超えた。消費回復が進んでいるようにみえるが、必ずしも楽観できる状況はないと認識。特に、固定資産投資のうち、民間企業の投資が引き続きマイナスになり、1～11月は0.5%減の23兆5,267億元。一方、国有企業による投資が6.5%増となった。低迷が続く不動産開発投資などの主要投資指標も上昇に転じるには至らなかった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11
実質GDP成長率	%	-	-	4.5	-	-	6.3	-	-	4.9	-	-
消費者物価上昇率	%	2.1	1	0.7	0.1	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5
都市部調査失業率	%	5.5	5.6	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0
輸出額	10億ドル	284.4	208.8	302.6	288.7	281.3	283.6	280.9	284.0	296.7	274.2	291.9
輸入額	10億ドル	192.6	196.8	225.4	203.2	216.0	214.3	201.4	216.6	221.2	218.2	223.5
経常収支	100万ドル	-	-	81,530	-	-	146,257	-	-	208,857	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.79	6.84	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年1月号)

2023/12/27

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○中国でCitywalk「シティウォーク」が人気に

Citywalkはイギリス・ロンドンの「ロンドン・ウォークス」（London Walks）が起源で、中国語に訳すと「城市漫游」となります。最近では友達と街を散歩しながら、コーヒーを飲んだり、撮影したり、地元のグルメを味わったり、個性的な店を訪ねたり、歴史がある建物を見たり、こうした街の楽しみ方が中国の若者の間で新たなトレンドとなっています。

現在、中国の若者はCitywalkのルートSNSでシェアしており、彼らはCitywalkに参加することで、街の歴史や文化を発信し、より多くの人々が自分たちの街を好きになってくれるように願っています。さらに若者向けだけではなく、地元の住民が普段生活していてもあまり行かないような街、観光客向けの定番の観光とは少し違ったおしゃれな場所、子ども連れや中高年、老人向けといった、さまざまなテーマのCitywalkコースが紹介され、注目度はまだまだ上昇中です。

小紅書（中国版Instagram）のCitywalkに関する人気の都市トップ10を見ると、1位が上海、2位が北京となっており、以下、広州、杭州、深セン、武漢、南京、蘇州、成都、西安と続いています。

また中国の大手旅行会社も、このトレンドの波に乗って若者の最新の旅行ニーズに応えるため、観光都市で目的別でCitywalkルートを開発しています。地元でも旅行先でも行って楽しい、見て楽しい、気づけば街で新発見がいっぱいと気付かされるところはCitywalkの一番の魅力かもしれませんね。

○寒くても運動が大事！

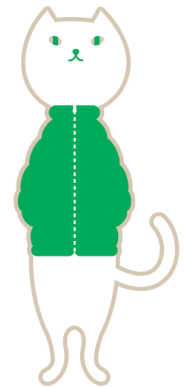
先週末、上海は異常に寒かったです。マイナス5度でした。

ダウンジャケットを着て出かけてもまだ体が寒く感じました。

日曜日は子供の卓球教室があり、レッスンを受ける場所である体育館まで15分歩かなければいけませんでした。行くかどうかは本当に迷っていましたが、子供は絶対行きたいと言うので、結局行くことにしました。実際体育館に着いたら、人が多いことに驚きました。みんな寒さを感じないほどよく運動をしています。うちみたいに子供を習わせる教室もありますが、友達同士でバトミントンやバスケットボールをやる人も多かったです。

最近、上海市政府は体育館を借りるために使う体育クーポン券を発行しています。毎日8時、12時、18時にアプリからクーポン券が取得でき、額面は5元から80元まであり、使用料金の割引を受けることができます。利用する人が増えるだろうと思います。

また子供の小学校では毎日体育の授業を設けており、子供の体を鍛えて、中国の学校教育で重要とされる「徳、智、体、美、労」の要素を全面的に伸ばすことを目標にしています。みんなの熱心な運動の様子を見て、私も来週から子供と一緒に運動することを考えています。



◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年1月号)

2023/12/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆消費好調を背景にタイ経済は回復基調続く

タイ中央銀行は、2023年10月のタイ経済は引き続き回復基調にあるとの見方を示した。民間消費と民間投資ともに回復軌道にある一方、観光業や輸出に勢いが無いとも指摘した。民間消費指数は前年同月比7.3%増で、サービス消費以外の分野で拡大した。サービス消費は国内外の観光客数に連動して減速した。民間投資指数は同0.2%減と前月の4.5%減から改善した。設備投資と建設投資ともに拡大した。他方、鉱工業生産指数は同4.3%低下し、13カ月連続の下落となった。食品・飲料、ハードディスク駆動装置（HDD）、合成ゴム、プラスチック等の生産は減少した。

◆2023年第3四半期GDP、1.5%増加

タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）が発表した2023年第3四半期（7-9月）の国内総生産（GDP）成長率は前年同期比1.5%増加した。前四半期の1.8%増から減速した。産業別で、農水畜産業分野は0.9%増、非農業分野は1.5%増だった。非農業では、工業が2.8%

減速した一方、サービス業は3.9%上昇だった。2023年のGDP成長率を2.5%と予測。これまでの2.5%～3.0%の下限に設定した。2024年については、2.7%～3.7%と予想した。

◆2023年11月CPI、前年同月比0.44%下落

タイ商務省が発表した11月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比で0.44%下落し、2カ月連続のマイナスとなった。前月比で0.25%下落となった。政府が電気料金や燃料小売価格を引き下げたことや、豚肉や鶏肉、植物油の供給量が増加したことが要因。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.20%増加したが、非食品が同0.87%減と下落した。2023年1～11月CPI平均値は前年同期を1.41%上回った。

◆政策金利、2.50%で据え置き

タイ中央銀行は29日、政策金利（翌日物レポ金利）を2.5%に据え置いた。据え置きは9会合ぶりとなった。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11
実質GDP成長率	%	-	-	2.6	-	-	1.8	-	-	1.5	-	-
消費者物価上昇率	%	5.0	3.8	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4
失業率	%	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	20,250	22,376	27,654	21,723	24,341	24,826	22,143	24,280	25,476	23,579	-
輸入額	100万ドル	24,899	23,490	24,936	23,195	26,190	24,768	24,121	23,920	23,384	24,411	-
経常収支	100万ドル	-2,446	509	3,964	-240	-3,162	868	-508	401	3,406	665	-
外貨準備高	10億ドル	225.5	217.4	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1
主要政策金利	%	1.50	1.50	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	33.2	34.1	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値

主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年1月号)

2023/12/27
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

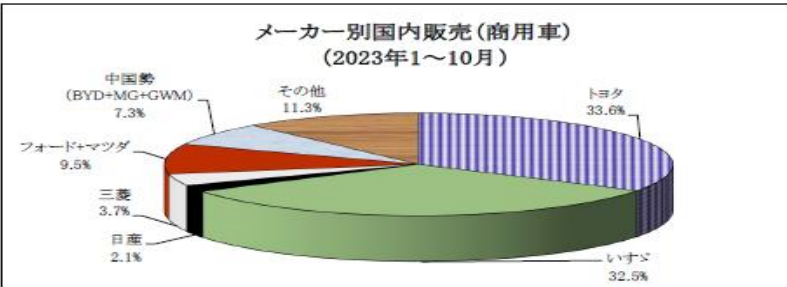
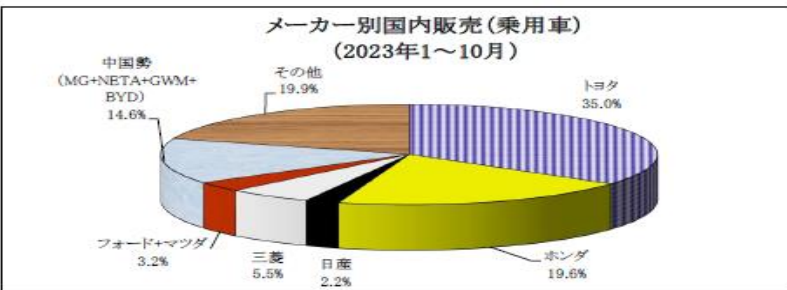
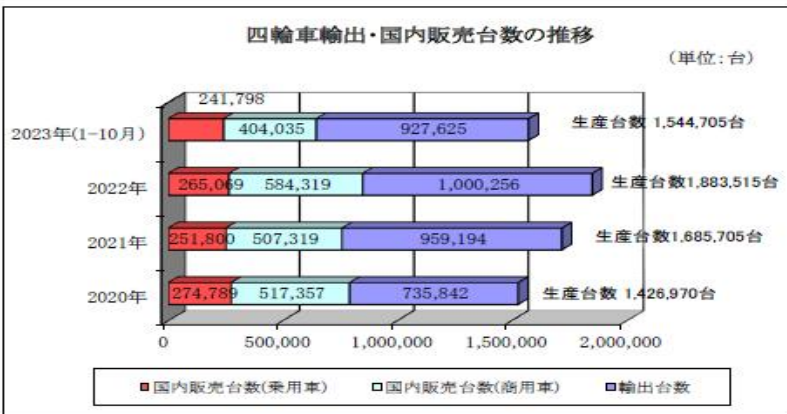
りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)								
			2020年	2021年	2022年	2023年 (1-10月)	前年同期比 (%)	10月
【台数】			(台)					
四輪	生産台数	乗用車	542,437	599,844	600,839	538,308	113.0	57,254
		商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	1,006,397	95.1	101,480
		合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	1,544,705	100.6	158,734
	国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	241,798	109.9	22,130
		商用車	517,357	507,319	584,319	404,035	84.5	36,833
	合計	792,146	759,119	849,388	645,833	92.5	58,963	
	輸出台数	735,842	959,194	1,000,256	927,625	115.9	105,726	
二輪	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	1,778,165	108.0	140,114	
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	1,581,316	105.7	134,978	
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	669,887	78.5	68,136	
【完成車輸出金額】			(百万バーツ)					
四輪			410,912	561,147	619,348	591,916	119.0	72,481
二輪			85,802	75,985	73,729	55,975	93.3	5,628

出所:タイ工業連盟(FTI)

		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-10月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	10月
【メーカー別国内販売台数】											
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	84,522	129.3	35.0	7,165
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	135,622	80.4	33.6	13,687
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	220,144	94.1	34.1	20,852
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	131,256	73.9	32.5	10,962
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	131,256	73.9	20.3	10,962
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	47,369	92.1	19.6	3,462
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	29,819	189.3	7.4	3,844
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	77,188	114.9	12.0	7,306
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	5,329	54.2	2.2	330
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	8,557	96.0	2.1	589
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	13,886	74.0	2.2	919
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	13,419	75.2	5.5	743
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	14,861	59.8	3.7	985
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	28,280	66.2	4.4	1,728
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	91,159	120.6	37.7	10,430
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	83,920	102.0	20.7	6,766
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	175,079	110.9	37.0	17,196
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	241,798	109.9	100.0	22,130
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	404,035	84.5	100.0	36,833
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	645,833	92.5	110.0	58,963

出所:トヨタ自動車



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。